

あがつま



年間聖句

『兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。』

(ガラテヤの信徒への手紙5章13節)

♪ 賛美歌を歌おう⑫
『あさかぜ静かにふきて』
讚美歌..30番)
作詞者は『アンクルトムの小屋』の作者として知られるストウ夫人 (1811-1896) です。ストウ夫人の父ライマン・ビーチャーは会衆派教会の牧師で、奴隷制度廃止運動の支持者で、『地下鉄道』(奴隷制が認められていた南部諸州から、奴隷制の廃止されてきた北部諸州やカナダに黒人奴隷が亡命することを手助けした組織)の協力者でした。そうした父の協力で、ストウ夫人は奴隷制度の悲惨な現実を目の当たりにします。一八五〇年に『逃亡奴隷法』(1850年法)が法制化。逃亡に協力した個人は処罰されたと共に、逃亡奴隷を捕らえた者には報奨金が支払

われるとするこの法律に憤慨したストウ夫人は、奴隷制度の実体を告発することを決意し、『アンクルトムの小屋』を執筆します。大ベストセラールとなったこの本が、奴隷解放のための南北戦争 (1861-65) を呼び起したとさえ言われています。
『あさかぜ静かにふきて』はこのストウ夫人の朝の祈りの中で生み出されました。メンデルスゾーン (1809-1847) 作曲、無言歌集第二集『慰め』(Op.30 No.3) に基づいた美しい旋律が印象的な賛美歌ですが、美しいメロディーに酔いしれて歌うだけでなく、当時の奴隷解放運動に思いをはせながら歌っていただきい賛美歌です。
稲垣真実)